

## 和歌山で気が付いたこと

ロシー チャンドラ  
交換留学生 インドネシア

初めまして。交換留学生として日本に来た、ロシーチャンドラです。私はインドネシアのジャカルタの出身です。実は、うちの大学は様々なプログラムがあり、私は和歌山大学に半年間留学することにしました。ひとまずの一步であり、一つの夢が叶いました。

私はインドネシアのタンゲランに住んでいます。タンゲランの面積は 164.54 km<sup>2</sup> で、総人口は 2,001,925 人（2014 年）です。和歌山の面積は 208.84 km<sup>2</sup> です。和歌山の総人口は 358,473 人（推計人口、2018 年 4 月 1 日）ですので、和歌山はタンゲランより広く、人口が少ないです。

今回日本へ来たのが私の初めての海外旅行です。和歌山に到着した時、色々なことに気が付きました。私が気が付いたことは、和歌山では信号機が多いということです。自転車に乗るとき、「どうしてこんなに多いのだろう？」と心が叫びました。100-200 メートルぐらい歩くと信号機があります。警察庁のホームページで公表されている「都道府県別交通信号機等ストック数」という資料によると、日本全国の信号機の総数は 2012 年度末現在で 204,713 基となっています。インターネットで調べると、和歌山にある信号機の数は 1,802 基です。日本には、インドネシアのだいたい 3 倍の信号機があると思います。



交差点で信号が少ないのは、インドネシアでは不思議ではありません。信号機は金属と電球から出来ており、貧しい人には格好の獲物に見えるかもしれないという理由があります。そして、タンゲランの人々は交通ルールをほとんど守らないというのも、タンゲランの道路に信号機があまりない理由の一つです。タンゲランで乗り物と人口がますます増えているので、信号機が減らされています。



歩道などはどこも整備されておらず、信号の数も非常に少なく、反対側の道に渡るためには交通量の多い道路をマジックハンド（手をかざして走行中の車を遮って渡ること）で横切らなければなりません。びっくりしたことに、和歌山では歩行者が横断歩道を渡る際、右折や左折の車が歩行者に道を譲ってくれました。

インドネシアの交差点で右折する車が、左から直進してくる車を無視して、交差点にうりゃうりゃとねじ込んでくるので、右折の車が道を塞いでしまい、そこから渋滞が発生します。渋滞が発生するとき、多くの人がイライラします。



和歌山では車とバイクの数は非常に少ないことにびっくりしました。和歌山に来た時、すごく静かで、クラクションの乱用もなく、和歌山に来て良かったと思いましたが、信号機が多すぎるので、青信号になるまで待つのが少し嫌な気持ちがあります。でも、日本人は、私のように思わないのでしょうか。私は日本に来てから、ルールを守る日本人を見習わなければならないと思うようになりました。おかげで、交通ルールの大切が分かるようになりました。交通事故を避けるために、これからルールを守ることで自分を危険から守ることにしました。

最後に、和歌山で一番好きなことがあります。私が一番好きなのは歩行者道路で歩くことです。これは、何人かの人に少しおかしいと思われるかもしれませんが、私にとって広い歩行者道路を歩くことは初めての経験でした。私の国では歩行者道路が非常に少ないため、ほとんど歩いたことがなかったのです。日本の歩行者道路を歩くと、道が広くて、安全で、街路樹があって、多くの店が並んでいて、とても気持ちが良いです。私は留学生として和歌山に来たのは本当にありがたいです。